

Ⅱ 人工林再生

<主要施策の取組状況>

1 地域特性に応じた適切な森林整備の推進

- ・ 公益的機能を重視した混交林等への転換を目標として、水源林整備事業や保安林改良事業等により、間伐等の人工林整備を 590ha 実施した。また、市町村等への補助事業（地域水源林整備事業）により、間伐等の人工林整備を促進した（58ha）。林内の照度改善により混交林化が促進され、公益的機能の向上に寄与した。
- ・ 森林資源の活用による持続可能な人工林の整備として、水源林整備事業や県営林造林事業等により、間伐等の人工林整備を 305ha 実施した。また、市町村等への補助事業により間伐等の人工林整備を促進した（572ha）。持続可能な人工林整備が促進されるとともに、間伐材が有効利用された。

2 森林整備とシカ保護管理の連携

- ・ 水源林整備などの森林整備と情報共有を行い、森林整備と連携したシカの管理捕獲を行った。平成 25 年度には新たに捕獲圧の低い水源林整備地周辺で管理捕獲を実施した。また、管理捕獲を行った水源林整備地における施業効果・捕獲効果を実証するために水源林内の調査地において植生調査・自動撮影カメラによる調査を行った。（Vシカ等野生動物の保護管理再掲）

3 県産木材の有効活用の促進と基盤の整備

- ・ 県有林において間伐材の搬出（76 m³）により県産木材活用を促進した。また、補助事業により、6,979 m³の間伐材を搬出した。
- ・ 基盤整備として、県営林道 18 路線（32 箇所）の改良工事を実施するとともに、水源林の補助事業として作業路 12 路線、作業道 2 路線の計 9,096m 整備した。

4 森林モニタリングの実施

- ・ 対照流域法による調査を実施した。平成 25 年度は、大洞沢、貝沢、ヌタノ沢、フチギリ沢の 4 カ所の試験流域において対照流域法による水・土砂流出に関するモニタリングを継続し、森林施業やシカの保護管理による事業効果の検証を行った。
- ・ 水源林事業により間伐等の施業を実施した箇所において 9 地点の植生、侵入広葉樹、現存量、光環境、土壌移動量、林分構造等の追跡調査を行った。

○森林整備実施状況（平成 25 年度）

公益的機能を重視した混交林等への転換	森林資源の活用による持続可能な人工林の整備
・ 間伐等人工林整備 590 ha (水源林整備事業・保安林改良事業等)	・ 間伐等人工林整備 305ha (水源林整備事業・県営林造林事業・旧社営林整備事業等)
・ 補助事業による間伐等人工林整備 58ha (地域水源林整備事業)	・ 補助事業による間伐等人工林整備 572ha (造林補助事業・地域水源林整備等)

○県産木材の搬出状況（平成 25 年度）

県有林からの搬出	補助事業による搬出
76 m ³	6,310 m ³

○基盤整備の実施状況（平成 25 年度）

県営林道改良工事	水源林作業路・作業道設置
18 路線（32 箇所）	9,096 m

○森林モニタリング実施状況（平成 25 年度）

水源涵養機能調査（対照流域法）	定点調査
<ul style="list-style-type: none"> ・大洞沢、貝沢：事後モニタリング ・ヌタノ沢：植生保護柵設置、事前モニタリング ・フチヂリ沢：事前モニタリング 	<ul style="list-style-type: none"> ・施業箇所の定点で、植生、光環境、土壌侵食深を調査。

県産木材搬出状況（上秦野県有林）



林道改良工事実施状況（唐沢林道）



対照流域法による水・土砂流出
モニタリング状況（大洞沢）



森林整備実施状況（混交林・南足柄市）



○人工林再生に関する事業の実施場所（位置情報のある事業のみ掲載）

